

<自主的努力項目記入書式>

提携先	全農チキンフーズ(株)	記入日	H22年8月9日
登録消費材名	チキンボール、ミートボール、鶏肉から揚げ、フライドチキン（セサミ）、手羽元照り焼き、手羽中半割り照り焼き、鶏肝しぐれ煮、砂肝やわかか煮		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

毎月1回実施している『安全衛生委員会・設備委員会』で出された意見や問題点などの項目を改善・検証することで、職場環境の改善・異物混入の防止・作業性の向上につながっています。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

前年度の目標はクレーム0件でしたが、鶏肉から揚げで異物混入のクレームを起こしてしまいました。対策としては、クレーム品の写真を掲示し従業員へ確認させて、検品を確実にするように指導しました。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

前年に引き続きクレーム0件を目標としていきます。来年3月までにISO22000を取得できるように取り組んでいますので、今以上に安心・安全な商品を提供できる職場を作ります。

<自主的努力項目記入書式>

提携先	全農チキンフーズ株式会社	記入日	2010/9/14
登録消費材名	すなごもスライス、親子丼の素		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

- ・（社）茨城県食品衛生協会のHACCP認証継続。
- ・従業員のアレルギーのコンタミや異物混入に対する意識の向上。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

- ・害虫の発生源となる排水弁の補修など防虫・防鼠の問題が徐々に改善している。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

- ・外部講師から指導を受けながらの新入社員や従業員の衛生教育の強化。
- ・月に一度の外部講師による衛生講習で作業場内の衛生管理の問題点の改善を積極的に行なっていく。

<自主的努力項目記入書式>

提携先	全農チキンフーズ株式会社	記入日	2010/9/16
登録消費材名	はりま鶏スモークチキン		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

コンプライアンス遵守を最優先すると共に、朝礼や全体研修会等で社員及び現場作業者に衛生教育を行い、異物混入、包装不良などの品質問題発生防止に努めて参りました。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

昨年度製造開始以来、異物混入などの品質問題は発生しておりません。「はりま鶏スモークチキン」は半割り丸鶏をそのまま仕上げた製品のため、鶏骨と包装資材が接する部分にピンホールが発生し易いことを懸念しておりましたが、製品へのセロファンシート巻きを確実にを行うことにより、包装不良による品質問題発生を防止できたと考えております。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

昨年度に引き続き、品質問題発生防止に努めることを目標と致します。また、5S活動の継続的な実施により、衛生環境改善に努めて参ります。

<自主的努力項目記入書式>

提携先	全農チキンフーズ株式会社	記入日	2010/8/28
登録消費材名	水餃子、タンドリーチキン、手羽元スモーク、チキンハンバーグ・やさい チキンウインナー（レバー入り）、鶏肉小判焼き		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

畜肉製品メーカーとして、原料肉・原料脂肪・原料内臓肉については指定原料の使用を必須条件としておりました。また、副原料として使用する野菜は国内産原料を使用してまいりました。調味料等は生活クラブ消費材からの選択を優先しております。全農グループの経営理念であります、国産農畜産物について生産者と消費者の架け橋となるよう努力してまいりました。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

国際的な品質認証資格であるSQF2000を09年10月に取得することができ、取得に向けて取り組んできました、従業員の意識向上、工場環境改善、設備機器の集中メンテナンスと更新等を行い、組合員様に安心してご利用頂ける消費材の安定供給に向け、前進することが出来ました。新規の消費材1品の供給を開始させていただきましたが、更に、組合員様に喜んでいただける消費材提案が必要と感じております。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

SQF2000の認証工場として、消費材における事故の削減を目指します。また、生産設備について整備、更新をすすめ、安全な製品の安定供給に向け努力いたします。国産製品への期待が多い中で、特に畜産原料では原種・肥育過程までこだわりのある、生活クラブ指定原料を使用した畜産加工品の新規消費材の提案に努力してまいります。

<自主的努力項目記入書式>

提携先	全農チキンフーズ	記入日	2010/9/25
登録消費材名	鶏肉		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

生産農場の環境整備としては、整理整頓・美化、臭気抑制など近隣住民への理解と協調に努めています。衛生管理としては、ヒナ導入前の水洗と消毒の徹底、また石灰散布によって農場全体の清浄化を図っています。飼養管理にあつては、季節に合った鶏舎環境づくりを行っています。また飼料、ワクチネーションなど'はりま'仕様を遵守し無投薬体系を維持するため、ヒナをよく観察し変化に対しては機敏に対応しています。出荷・工場への搬入については、専門チームを編成しヒナに負担のかからないような取り扱いをしています。本年から生産体制が110万羽体制から90万羽へ縮小し農場の回転率が下がり生産者にとっては減収となりましたが、空舎期間を利用し生産成績向上のための農場整備をさらに進めたいと考えています。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

○入雛の強化
→水飲み場：ニップル1個10羽、ドリンカー：1個80羽として算出 足りない場合はダルマなどで強化。
→入雛時、温度が取れない場所においてはブルーダーやジェットヒーターなどを使い温度を確保。また、保温としてノーポリなどを使う。また、ガードの外、ブルーダーの下などに水を張り湿度を確保する。
→敷き紙を使用し、撒き餌で刺激を与えて餌付けを促進。
○桑の葉添加
→桑の葉添加による内臓強化及びポックリ対策とする。ただし多大な経費がかかる為成績低迷している農家を中心に行う

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

○ワクチネーションの見直し
→現在のはりまに合ったワクチネーションを構築する。血液検査などにより感染傾向を見定め農場ごとのワクチネーションを組む。
○ポックリ対策
→58日令出荷により育成率の増加が見込めるものの、根本的なポックリ対策には繋がっていない。仕上げのカロリーを下げる試験や前期のクランブルをマッシュに変更するなど検討試験してポックリ対策を進める。
また、点灯飼育なども取り入れて試験を行う。
○農場整備
→冬場の空舎を使い農場整備を行う。周りの環境や老朽している鶏舎を補修、改善を行い生産性を高める。

<自主的努力項目記入書式>

提携先	全農チキンフーズ	記入日	2010. 9. 29
登録消費材名	ダシ取りはりまガラパック		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

異物混入防止と衛生面を充実させる為、5S活動に取り組みながら生産活動をしてきた。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

トラブルやクレームの発生もなく生産できた。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

作業手順を充実させ、作業に従事する人の意識の向上と能力の向上を図る。

<自主的努力項目記入書式>

提携先	全農チキンフーズ株式会社	記入日	2010/9/13
登録消費材名	比内地鶏やきとりセット		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

消費材コード基準項目 42・43・63 畜産69・70・74・90

製造ラインの管理と洗浄

- ・せっけん水、アルカリ水溶液、水や水蒸気の噴射によるラインや機器の洗浄
- ・事業所内厨房ならびに洗濯にせっけんを使用
- ・合成界面活性剤によるラインの洗浄

弊社では、工場排水が浄化槽での処理後八郎湖に排出しており、色々な環境保全の面からみても合成界面活性剤の入っていないせっけんでのライン洗浄が望ましいと考えておりますが、生産上・鶏から出る脂肪分が、完全に落ちない無い為せっけんでの洗浄に切り替えることができておりません。

八郎湖排水汚染や浄化槽への環境面から考慮し、通常弊社では使用している洗剤に30%の水を加え薄めて使用していますが、衛生面や汚染事故などからみても限界があり、せっけんでの洗浄が不可能と思います。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

消費材コード基準項目 82・83

消費材事故の管理と対策

- ・個別原材料保管の温度管理と異物混入汚染の防止
- ・製造工程での異物混入対策

昨年度からの引続き夏場の仕事として比内地鶏やきとりセットの生産供給が定着しましたが、現在工場内では、夏場における作業中での温度管理に苦慮しております。

今年の猛暑で工場内室温が(各加工室)上昇して夏場工場内室温設定16℃以下に対し、日によっては24℃～26℃まで上昇した経緯があります。

工場建物の老朽化、それに伴いクーラー等の設備も古くなっていて、衛生面・従業員の健康面からみても早急な対策を社内にて検討をしなければならぬと考えております。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

上記の2点からみて今年度も引き続き品質管理の向上を目指していきたいと思っております。

又、工場内における人員不足も挙げられると思っております。特にと鳥の工程では、現役を退いた方々にその工程作業を手伝っていただいております。この工程は作業のスピードが求められますが、新しい人材を確保し工場内の若手を育成していかなければならぬと考えております。

- ・生産者別による検査の導入(自主検査)
- ・人材の育成と適材適所で作業の効率化のアップ
- ・今年度、食鳥処理衛生管理者をさらに3名増員し、より消費者(会員)の皆様に安全で安心な製品をお届けする為、努力します。